

軍鶏(八木戸)

昭和 16(1941)年 8 月 1 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



軍鶏は、江戸時代の初期、シャム(タイ)より渡来したマレー系統の鶏種で、その名称シャモは、シャムに由来するとされています。

軍鶏の一品种である八木戸(ヤキド)は、三重県明和町の地名に由来し、内種は黒色のみで、中型軍鶏の変種と考えられています。

軍鶏の主な生息地は、青森県、秋田県、千葉県、東京都、茨城県、高知県ですが、八木戸は三重県を主たる生息地とします。

地鶏(猩々種)

昭和 16(1941)年 1 月 27 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



地鶏の名称は、江戸時代に新来した鶏に対し、在来鶏を地鶏と呼び、区別したことに始まるとされ、猩々の他に赤笹、黄笹、白笹の内種があります。

猩々種は、赤笹種の羽色に変異を生じた個体を飼育改良されたものと考えられ、伊勢で多く飼育されています。

肉垂および耳朶は鮮赤色、眼は赤栗色、足は黄色、尾は車尾でないものが好ましいとされています。

主な生息地は、三重県、岐阜県、高知県です。

しょうこく
小国鶏

昭和 16(1941)年 1 月 27 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



小国鶏は平安期に遣唐使が中国の昌国から持ち帰ったものと伝えられ、その名もここに由来します。白藤、五色、白色の内種があります。外面的の著しい特徴は、清朗な鳴声と長い尾、五色型の羽色、胸を張った気品に満ちた姿勢です。耳朶は赤色、足は黄色、尾は純黒

で白斑のないもの、胸は黒一色で白理のないものが良いとされています。

主な生息地は、三重県、京都府、滋賀県です。

うこっけい
烏骨鶏

昭和 17(1942)年 7 月 21 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



江戸時代初期に中国より渡来し、寛永年間に保存改良されました。全身の羽毛の小羽枝がはなればなれで、絹糸のようになっています。白色と黒色の内種があります。肉や骨が黒いことも特徴の一つです。冠は球状で、しわがあります。毛冠は冠の後

に叢生して、美しく一様に後方へ倒れます。中国では、古来より妙薬として肉、卵が珍重されています。

主な生息地は三重県、大阪府、広島県、山口県、香川県です。

かわちやっこ
河内奴鶏

昭和 18(1943)年 8 月 24 日 国・天然記念物(地域を定めず)指定



三重県度会郡産の
^{こじどり}小地鶏ほどの大きさの
小型鶏です。小地鶏と
軍鶏が交雑してできた
と考えられています。

^{かん}冠の大きさは中くらい
で、三枚冠となっている
ことが大きな特徴です。
中央のものが特に大き
く直立の単冠に近い形
で固くつき、その両側に

副冠があります。他の日本鶏には見られない特殊な形です。内種は^{ごしき}五色種のみで
す。

主な生息地は三重県です。